

平成30年度事業報告書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

1. 事業概要

(1) 青果物を取り巻く環境について

生産面では、60歳以上層割合の増加や外国人技能実習生の増加など、深刻な農業従事者の高齢化・後継者不足により、作付面積および生産量は長期的に減少傾向で推移している。他方、農家の大規模化・法人化の進展に伴って、農業生産法人は増加し、農地面積に占める担い手の利用面積割合が増加して農地集積が進んでいる。また、異業種による農業参入は、作物別では野菜への参入が最も多く、大手企業の参入状況は、小売や外食、食品関連に加え、化学、ガス、鉄道など幅広い業種に及んでいる。本県においては、圃場整備、園芸施設の復旧が進み、ICTや先端技術を導入した新たな農業経営体モデルを形成し、ゆっくりではあるが、これらの取り組みの成果が出てきている。

消費面では、高齢化の進展、単身世帯化、共働き世帯などの増加により食の外部化（中食・外食）や簡便化志向が進み、国内仕向け量に占める加工・業務用の割合は高まっており、生産コストの低減と通年の生産量・品質面の安定化が必要となっている。

流通の変化では、小売販売額が総じて減少している中、惣菜が好調のコンビニエンスストア・食品スーパーマーケットやネット通販などが増加傾向にある。また、直売所についてはおよそ1兆円規模の販売額に迫っているが、うちJAグループと生産者・生産者グループで全体の6割強を占めている。卸売市場については、取扱数量・金額は長期的に減少傾向にあり、合併や倒産などにより卸売・仲卸業者数も減少している。今後は、大消費地の営業力のある取扱い上位会社に集中する傾向が見られ、人口減少地域の卸売市場は取扱い高が大きく減少することが見込まれる。物流については、輸送運転手100万人の需要に対し10万人ほど不足しており、運送事業者に対する行政の基準が厳格化し、北海道や九州を中心に、輸送費の上昇要因となっている。

(2) 青果物の生産販売状況について

仙台市場の野菜価格については、1～3月の低温と降雪により4月～6月は、入荷量はやや前年より減少したが、一時的な輸入量増加の影響等もあり前年を下回り、7月以降は、記録的な猛暑や干ばつ、相次ぐ台風や記録的な大雨等により、3ヶ月連続で入荷量が約10%減少し、価格は11月まで高値で推移した。12月から年明け後は、暖秋・暖冬による前進出荷を含んだ順調な入荷と、暖冬による鍋物需要の低迷も影響し、安値の展開となった。また、カット・冷凍・惣菜用野菜などのニーズが高まっている中、野菜の輸入量は3年連続で増加しており、平成30年の貿易統計では前年より6%増で、うち生鮮野菜が前年を14%増と大きく上回り、冷凍野菜では5%増となっていて、相次ぐ国産野菜価格の乱高下により、輸入物の手当てを強めた状況が伺われる。

平成30年度の全農宮城県本部の園芸品目取扱いについては、数量で33,589トン（前年比100%）、金額で135億円（前年比98%）の販売実績となっている。また、31年産（30年10月～31年3月末）仙台いちごについては、1,826トン（前年比99%、震災前対比77%）と前年を僅かに下回る出荷実績となった。

(3) 補給金の交付状況について

本協会は、青果物流通の安定による国民生活の安定化及び生産農家の経営安定と再生産の確保を図るため、販売価格が著しく低迷した品目について「一般青果物価格補償事業」で16品目、「特定野菜等供給産地育成価格差補給事業」については、2品目を対象に補給金の交付を行った。

「一般青果物価格補償事業」による補給金交付額は、猛暑や記録的な大雨等の影響から夏秋期は品薄感で推移したものの、例年の交付金額上位品目の他に、暖秋・暖冬の影響等による「キャベツ」や「チンゲンサイ」などの葉物類の安値により、前年を上回る交付実績となった。

2. 補償の実績

(1) 一般青果物価格補償事業 …… 表1

野菜については、「たまねぎ」「キャベツ」「えのきたけ」「チンゲンサイ」「トマト」等で交付を行った。また、果実については、平均販売価格が補償基準価格を上回り交付が無かった。

年間交付額は、26,487,677円（前年比116.3%）で、交付予約数量10,931.4（前年比97.3%）トンに対し交付対象数量1,919.5トン（前年比132.6%）の実績となり、上位3品目で交付額の50%弱を占めた。

(2) 特定野菜等供給産地育成価格差補給事業 …… 表2

「しゅんぎく」と「ほうれんそう」で、交付予約数量142トンに対し交付対象数量9.3トンの実績となり309,543円の交付を行った。

表1 一般青果物価格補償事業

対象月	補給金額 (円)		前年比 (%)	対象品目	品目数	交付年月日
	30年度	29年度				
4月	2,667,178	1,917,342	139.1	トマト	1	H30. 6. 21
5月	0	648,000	—		0	—
6月	584,240	519,325	112.5	たまねぎ、ちんげんさい、ゆきな、ブロッコリー	4	H30. 8. 22
7月	3,404,896	5,810,246	58.6	たまねぎ	1	H30. 9. 19
8月	1,375,296	2,991,932	46.0	たまねぎ	1	H30.10. 19
9月	0	5,301,090	—		0	—
10月	9,000	5,314,759	0.2	ゆきな	1	H30.12. 21
11月	5,807,285	0	—	キャベツ、ちんげんさい、ゆきな、こまつな、みず菜 しゅんぎく、レタス、だいこん	8	H31. 1. 21
12月	6,222,634	0	—	キャベツ、えのきたけ、ちんげんさい、ゆきな、こまつな、レタス	6	H31. 2. 21
1月	1,165,016	0	—	ちんげんさい、ゆきな、こまつな、はくさい、ねぎ	5	H31. 3. 20
2月	790,074	0	—	ちんげんさい、ゆきな、こまつな、はくさい	4	H31. 4. 19
3月	4,462,058	267,680	1666.9	えのきたけ、ちんげんさい、こねぎ、こまつな、みず菜 はくさい、つぼみな	7	R元. 5. 21
合計	26,487,677	22,770,374	116.3		16	

表2 特定野菜等供給産地育成価格差補給事業

対象品目	対象出荷期間	補給金額 (円)		前年比 (%)	交付年月日
		30年度	29年度		
ほうれんそう (東北)	H30年 10月 1日～ 12月 31日	0	0	—	—
ほうれんそう (東北)	H31年 1月 1日～ 3月 31日	6,245	0	—	R元. 5. 24
しゅんぎく (東北)	H31年 1月 1日～ 3月 31日	57,795	0	—	R元. 5. 24
しゅんぎく (関東)	H31年 1月 1日～ 3月 31日	245,503	0	—	R元. 5. 24
合計		309,543	0		R元. 5. 24